

現代産業へのあゆみ



目次

口 絵

刊行のことば

監修のことば

まえがき

凡 例

上田市誌刊行会長 上田市長 母袋 創一
東京大学教授 文学博士 佐藤 信

第一章 近代化へのスタート

第一節 農林業

一 地租改正

村にも新しい行政の区画が 合併して大きな村に 共同体としてのむらの存続 土地は農民のもの

壬申^{じんしん}地券 地租改正の経過

二 生産のしくみ

農地の所有状況 山林原野は村から遠くに 村人の仕事 村人の生活 稲作と養蚕

三 むらの山（共有林野）

大事なむらの山 林野の地租改正 入会地として残った山林原野 荒れる林野 官民区分の見直し運動

第二節 漁業	15
--------	----

一 千曲川と漁業	15
----------	----

河川解放と鑑札制度 『長野県町村誌』にみる地区漁業 明治初期の漁具・漁法

盛んであった千曲川のさけ漁 千曲川のつけば漁 築漁に免許 塩尻村の漁業

二 養殖漁業のはじまり	19
-------------	----

盛んになる養鯉業 稲田養鯉のはじまり

第三節 工業	21
--------	----

一 村の工業	21
--------	----

村人の仕事 生糸と織物の生産 農蚕業用具と蚕種用材料

二 町の工業	25
--------	----

盛んな上田町の工業 常入村の職業調べから

三 近代工業への模索	26
------------	----

新しい器械座繰を求めて 生糸改会社 器械製糸の試み 大規模な織物工場の設立

器械製糸拡栄社の創業 上田蚕糸組合と生糸同業組合 信陽館製糸場の設立

第二章 新しい産業の始動

第一節 農業	33
--------	----

一 新しい農業技術と農会	33
--------------	----

新しい農業奨励の共進会 老農技術の奨励 勸業会と農談会を通しての普及 農事試験場の研究技術も

農会の設立	37
二 自然災害とため池・用水路	37
自然災害	ため池の利用
	用水の分布と活用
三 産業組合	39
農民を守る産業組合	産業組合の広がり
第二節 林業	41
一 変わる山林原野	41
厳しくなる官林の管理	山を緑にする部分林方式
	殿城村の部分林
	傍陽村外十か村の部分林組合
二 官林払い下げ運動	42
上田小林区署	官林を払い下げ桑園づくり
	殿城山の官林払い下げ
	田沢山の官林払い下げ
小牧山の官林払い下げ	
三 財産組合の誕生	44
長村外九か町村財産組合	青木村外三か村財産組合
第三節 工業	47
一 常田館	47
器械製糸工場の広がり	上田へ進出した笠原組
	常田館の優れた立地
二 在来工業	48
蚕具生産の発達	盛んな酒造り
	味噌は早くから商品化
	飴・窯業・経木
	鍛冶と鑄造
盛んな印刷業	

第三章 全盛期を迎える蚕業

第一節 農業

一 蚕ささまま

変わる養蚕 繭の高値 人を雇って養蚕 進歩する養蚕技術 蚕の品種改良

55

二 築堤と水路の整備

千曲川の氾濫 古い堤防と洪水 難しい堤防づくり すべての堤防の改修 新しいため池づくり

61

水路の整備

三 繭糸会社の設立

繭の販売先 繭糸会社の誕生 繭の検定

66

四 小作農と農民組合

養蚕と小作農 農民組合

68

第二節 林業

一 林業経営への取り組み

新しい林業経営の方向 郡有林をつくる 長村外九か町村共有林の植林 殿城村有林の林業経営

70

私有林の経営

二 区有林の統一と官行造林

進まない区有林の統一 官行造林を通し造林活動を

72

第三節 工業	74
--------	----

一 新しい製糸業の展開	74
-------------	----

生糸の品質を高めるために 上田の製糸業

二 変わる器械製糸	75
-----------	----

変わる生産体系 原料繭の確保のために 新しい煮繭方法 繰糸技術の進歩 早くから蒸気を使って

製糸工女確保に奔走 工女の生活と工女の構成

三 座繰製糸の動向	78
-----------	----

農村工業の衰退 座繰生糸の増加 停滞する織物業 減っていく染物業

第四章 大不況から十五年戦争

第一節 農業	83
--------	----

一 早ばつと霜害	83
----------	----

早ばつと干害 たびたびの霜害

二 世界恐慌と農村救済	84
-------------	----

世界恐慌のはじまり 農村の救済へ

三 更生運動	86
--------	----

農家の経済更生 養蚕からの脱出 浦里村の取り組み

四 満州移民	91
--------	----

海外移民の動き 満州移民の推進 青少年義勇軍

五 村は軍需物資の補給地	92
--------------	----

動員される人々	国民徴用と産業報国会	青少年の勤労奉仕	増える物資の調達
六 食糧増産への取り組み	農業生産推進の組織	農業生産の状況	新しい用水路づくり
95			
第二節 林業			
97			
一 大不況の中の林業			
97			
養蚕の目減りを林業で埋める	上田小林区署の山村救済事業	失業救済として林道開発事業	
二 戦時体制下の林業			
98			
木炭組合と木炭生産	木材生産と森林組合の結成	木製の飛行機の部品作り	木炭自動車に使う木っころ
山は資源の宝庫			
第三節 漁業			
101			
一 新しい組織への動き			
101			
上小漁業組合の設立	鮎養殖のはじまり	水産試験場の設立	
二 千曲川さけ漁の終焉 ^{えん}			
103			
ダム建設とさけ漁	戦時下の漁業		
第四節 工業			
105			
一 工場倒産と技術革新			
105			
世界恐慌と製糸業	不況の中での技術革新	不況を乗り切る常田館	
二 工場の誘致			
106			
地方経済の建て直しへ	鐘紡の誘致	鐘紡上田工場の建設と工場設備	招致工場への優遇措置
農村でも工場設立の動き			

第五章 戦後復興の中で

第一節 農業

三 産業統制……………	109
企業整備へ 軍需工場への転換	
四 軍需工場の誘致……………	109
軍需工場を積極的に招致 市の手で進める招致工場の建設	
五 疎開工場及び転換工場……………	111
上田へ来た軍需工場 軍需工場の生産体系 労働者を確保するために 学生の動員体制 秘密の工場	
地下工場の建設	
第一節 農業……………	117
一 終戦直後の村……………	117
やみ売買も仕方ない世相 やみ景気でうるおう人々 農家の言い分 やみの消滅	
二 食糧危機と農業生産……………	119
食糧増産に取り組む農村 米の供出と農家 神科村の農業 神川村の分村婦恋開拓地 農業経営の変容	
三 農地改革……………	123
農地改革と農地委員会 上田地区の農地改革 農地改革のその後	
四 相次ぐ洪水……………	127
昭和二十年の水害 昭和二十五年の水害	
五 ため池と農業用水路……………	128
ため池の改修 沢山池を温水ため池に 依田川用水路の完成 農業用水路の役割の変化	
塩田平における水利慣行の変化	

第二節 林業……………

133

一 食糧を求めて山へ……………

133

食糧を求めて山へ押しかける 豊富な山の副林産物

二 山林所有と木材生産……………

134

山の持ち主 零細な私有林の持ち主 木材は国有林と公有林で 増えるはだか山

三 緑化への取り組み……………

135

採種から苗づくりまで 県民運動による植林の推進 本格的な植林の開始 森林法の改正と造林活動

第三節 漁業……………

138

一 河川漁業と稲田養鯉……………

138

再発足の上下漁業組合 発展する養殖漁業 あゆの池飼養 稲田養鯉のおわり

二 塩田鯉の養殖……………

140

塩田鯉のはじまり ため池での養鯉の特色 塩田鯉の流通

第四節 工業……………

143

一 平和産業への転換……………

143

平和産業への転換を急ぐ工場 すさまじいインフレの中で 賠償指定と戦時補償打切り

二 厳しい状況の中の工業生産……………

145

工業の構成が大きく変化 厳しい電力制限

三 多発する労働争議……………

146

すすむ労働組合の結成 日本無線の争議 鐘淵通信工場とたばこ工場誕生

四 工業生産の再生……………

148

五	朝鮮戦争と特需……………	149
	ドッジラインと企業の経営 三六〇円の為替レート 課税の強化 超均衡予算	
	特需景気 若者の大都市への流出	
六	工場誘致……………	151
	財政難に苦しむ上田市 県の工場誘致条例 上田市の工場誘致条例 力を入れた工業育成事業	
	工業立地環境調査	
第五節	建設業……………	153
一	戦前の建設業……………	153
	建設業のスタート 建設業の構成 建設業者の誕生 建設業の組織づくり 戦時下の建設業	
二	昭和二十―三十年代の建設業……………	154
	建設業の再スタート 人手にたよる建設作業 建設作業に機械を導入	
三	主な土木・建築工事……………	156
(1)	上田小県地方の河川と治水 ^{ちすい} ……………	156
	上田小県地方の河川の特徴 千曲川の洪水 千曲川の堤防復旧工事	
(2)	生活の基盤づくり……………	158
	住宅建設は市や県で 学校の新築改築ラッシュ	
(3)	道路と生産基盤の整理……………	158
	国道の改良工事 国道のバイパス 市街地道路の拡張・整備 食糧増産のための土地改良	
第六節	水道・ガス・電気……………	161
一	上水道……………	161
	上水道の新しい水源	

第六章 経済成長期の中で

第一節 農業

二	都市ガス	161
	地元資本の上田ガス	戦後のガス事業
三	電気	162
	中部電力の誕生	メーターの取り付け
		工事はすべて手作業
一	変わる農業生産	167
(1)	機械化の進む米づくり	167
	飛躍的に増えた米の収穫	進む農作業の機械化
(2)	国光・紅玉からふじへ	169
	りんごブームに沸く農村	共同選果と共同出荷
		国光・紅玉からふじへ
		巨峰生産がのびる
(3)	大型化の進む畜産	170
	経営規模が拡大する畜産	石油危機と農業経営の悪化
		規模拡大を目指して
(4)	産地形成に取り組む野菜・園芸	172
	野菜の産地化を目指して	伸びる花き園芸
(5)	養蚕業と薬用人じんの栽培	174
	姿を消す養蚕業	全国一の薬用人じん栽培
二	変わる農家	175
	急速に進行する兼業化	神川地区にみる兼業化の進行
		兼業に伴う問題
		進まなかった規模拡大
三	生産基盤の整備	177

農業改善事業	かんがい排水事業	ほ場整備事業	農村環境の整備
四	米の生産調整と農地の減少	米の生産調整	うまい米作りと機械生産の体系
			農業の請け負い耕作
			少ない農地の移動
178			
第二節	林業		
181			
一	燃料革命		
	薪炭づくりは農家の副業で	燃料革命の急速な進行	
181			
二	木材の自由化		
	急速な森林伐採	林業での技術革新	すすむ奥地の森林伐採
			木材の自由化で外材が増加
182			
第三節	工業		
185			
一	機械金属工業への集中		
185			
二	工業団地づくり	機械金属工業の集中	中核工場と下請け生産体系
	自動車部品工業の展開		生産技術の目覚ましい向上
188			
三	輸送機械工業の発展	アート金属工業(株)	機城南製作所
	自動車生産の新しいしくみ		日信工業(株)
191			
四	進む技術革新	オルガン針(株)	(株)ミヤノ
	長野計器(株)		
195			
五	電気機械工業の展開		
	電気機械工業が上田の主力に	上田日本無線(株)	山洋電気(株)
	東京特殊電線(株)	日置電機(株)	
	シナノケンシ(株)		
198			
五	食品工業の発展		
	大手工場による特色ある製品	日本たばこ産業(株)	信州ハム(株)
	発展する食品の地場産業		エスビー食品(株)

六	工業の発展と公害問題	202
---	------------	-----

公害の発生	市に公害課を設置
-------	----------

第四節	建設業	204
-----	-----	-----

一	建設業界の動き	204
---	---------	-----

建設業の変化	組織の拡大
--------	-------

二	主な土木・建築工事	204
---	-----------	-----

(1)	千曲川の堤防改修	204
-----	----------	-----

丈夫な堤防づくりの計画	堤防の改修工事
-------------	---------

(2)	公共施設と住宅団地	205
-----	-----------	-----

市の公共施設	学校建築	運動施設	国・県の公共施設	住宅団地の造成
--------	------	------	----------	---------

三	交通・生産基盤の整備	207
---	------------	-----

(1)	道路の整備	207
-----	-------	-----

市街地の道路整備	地方道の整備	国道の排気ガス粉じんの測定	国道一八号線の上田バイパス
----------	--------	---------------	---------------

(2)	生産基盤の整備	209
-----	---------	-----

農業構造改善事業	上田卸団地の造成
----------	----------

第五節	水道・ガス・電気	211
-----	----------	-----

一	上水道	211
---	-----	-----

市営上水道の拡大	県営水道
----------	------

二	都市ガス	212
---	------	-----

天然ガスへの切り替え	上田ガスの立地	LPガスの普及	消費が伸びるLPガス
------------	---------	---------	------------

三	電気	213
---	----	-----

第七章 国際化の中で

第一節 農業……………	217
-------------	-----

一 農産物の輸入自由化……………	217
------------------	-----

輸入食糧の自由化と影響 円高の進行と農産物 農産物輸入と価格競争

二 これからの農業を求めて……………	219
--------------------	-----

(1) 農業の現況……………	219
----------------	-----

減少する農業生産

(2) 農地と担い手の行方……………	220
--------------------	-----

農地の保全とその行方 農業の担い手の行方 認定農業者制度

(3) これからの農業像……………	222
-------------------	-----

農業の再生を願って

第二節 林業……………	225
-------------	-----

一 手の入らない山……………	225
----------------	-----

里に出てくる野性動物 山の持ち主が分からない 広がる松くい虫の被害

二 国際化の中の国有林……………	226
------------------	-----

少なくなった市内の国有林 営林署から森林管理署へ 時代に対応した事業を

三 林業再生の道……………	228
---------------	-----

複層林にする努力 新しい組織での取り組み 山では木が成長している

第三節 漁業

一 衰退する養殖漁業

塩田鯉の崩壊過程 あゆ養殖の終わり

二 現在の千曲川漁業

観光化した漁業 千曲川のあゆ漁 上田の名物つけば その他の漁法 カムバックサーモン運動

第四節 工業

一 技術革新と新しい工業団地

進む技術革新 周辺地域への工場の拡大 新しい工業団地の造成 浅間テクノポリス

二 製造業の海外進出

製造業を中心に海外進出 自動車工業の東南アジア進出 自動車工業のアメリカ進出 広がる海外シフト

三 外国人労働者と上田の工場

増加する外国人労働者 狭くなる労働力市場 工業発展へのさらなる努力

第五節 建設業

一 建設業界の動き

急増する公共事業 低成長期の建設業

二 主な土木・建築工事

(1) 自然災害と治水 五十年以降にみられる洪水 千曲川堤防の改修

第八章 新しい産業立地へ

新しい産業の動きを追って

国際化の中で苦戦する各産業

A R E C 設置と事業展開

斜陽の産業から学ぶ

259

(2) 公共施設と住宅建設

247

市や県などの公共施設 変わる住宅建設

三 生産基盤の整備

248

工業団地の造成 電線の地中化と歩道の整備 上田駅温泉口の整備 上田駅前（お城口）の再開発

四 交通網の整備

250

(1) 地方道の整備

250

環状道路の実現に向けて

(2) 国道一八号線の整備

250

下塩尻地区の岩石崩落の観測 排水性舗装の国道 上田・篠ノ井バイパス

(3) 新幹線と高速道路

251

北陸新幹線 関越自動車道上越線

第六節 水道・電気

253

一 下水道

253

公共下水道 農業集落の排水事業

二 電気

255

質のよい電気と安定した供給

執筆分担

参考文献

あとがき

上田市誌の編さん組織

『上田市誌』全三冊の編成と書名

表紙

工場で働く人たち

山口芳充蔵

裏表紙

ページめくり機の開発

西澤電機計器製作所蔵

上田市誌 近現代編(3)

現代産業へのあゆみ

発行 平成十四年十月一日

編集者 上田市誌編さん委員会

発行者 上田市

上田市誌刊行会

上田市大手一―一―一六

電話 〇二六八―三二四一〇〇

印刷所 信毎書籍印刷株式会社

長野市西和田四七〇